

## 私にできること

山形県 山形大学附属小学校 4年 佐藤 莉子

わたしのしょう来のゆめは、盲導犬訓練士になることです。1年生のときに盲導犬のイベントに行き、訓練士の仕事の内よう、どうやって盲導犬との信らい関係を作るのかななどを教えてもらい、そのときからわたしもなりたいと思うようになりました。

盲導犬のことを知ってから、白いつえを持っている人を見かけると、「あぶなくないかな？」「周りに車はいないかな？」と意しきをするようになりました。

歩道に必ずある点字ブロックのことも、そのときに何のためにあるのかを知りました。

3年生のとき、朝、お母さんと駅に向かって歩いていると、自転車置き場から自転車がはみ出して点字ブロックの上に停められていました。もしも、ここを目の不自由な人が通ったら、どうなるでしょう。盲導犬がいても、気づかないでぶつかって転んでしまうと思います。たおれた自転車の下じきになって、人も犬も大ケガをしてしまうかもしれません。

わたしは、お母さんといっしょにはみ出している自転車を片づけました。お母さんが、

「目に見えない親切だけど、心の目には、ちゃんと見えているよ。」

とほめてくれました。動かした自転車のほとんどは高校生のものでした。わたしは少し残念な気持ちになりました。

4年生になってからも残念なことがありました。家族でお祭りに行ったとき、点字ブロックにガムとペットボトルが落ちていました。盲導犬が教えてくれれば、ふまないで通れるかもしれないけど、もし教えられなかったら、ふんでしまって不ゆかいな気持ちになると思います。わたしは持っていたティッシュでガムを拾って、ペットボトルもいっしょにかたづけました。

自分を目の不自由な人の立場に置きかえてみたら、歩くところに自転車が置いてあったり、ガムやゴミが落ちていたら、わたしだけじゃなく、高校生のお兄さん、お姉さんたちも大人もいやだと思います。わたしは、いつもお母さんから、自分がされていやなことは人にしてはいけないと言われていています。一人ひとりが気をつければ、街もきれいになるし、目の不自由な人も安心して盲導犬といっしょに歩けると思います。

ドアに『ほじょ犬マーク』がはってあるレストランを見たことがあります。ほじょ犬を連れている人でも入っていいですよ、というマークです。テレビに、ほじょ犬を連れていてお店に入るのをことわられて悲しい思いをした人が出ていました。ほじょ犬は、連れている人の目や耳のかわりをしているのにおかしいな、悲しいなと思いました。

わたしが大人になって、盲導犬訓練士になるころは、点字ブロックの上がきれいで、ほじょ犬を連れている人が、行きたい場所、行きたい店に自由に入れるようになっていけばいいなと思います。